実践事例　小学校４年

道徳の時間で活用する
～友情、信頼～

山口市立大内南小学校　澤藤　陽子

1　本場面におけるポイント

● **ねらいとする価値への方向付けをする。**

「私たちの道徳」の写真を見たり、文章を読んだりすることによって、生活場面の想起や価値への方向付けにつなげる。

● **価値についての自分の考えを書く。**

今までの生活場面を振り返りながら、価値について考えたことを自分なりにまとめる。

2　授業の実際

１　主題名　　信頼のきずな　「絵はがきと切手」（出典　文渓堂　４年生の道徳）

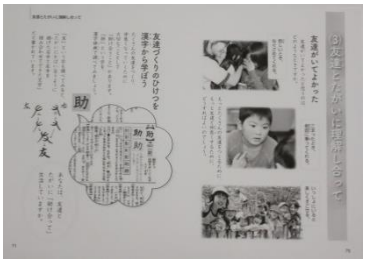
２　ねらい

料金不足のことを知らせるかどうか迷いながら、知らせることにした広子の気持ちを考えることを通して、友達と互いに信頼し、助け合い、忠告し合って友情を深めていこうとする心情を育てる。

３　展開

（１）導入　価値への方向付けをする。

教師：友達がいてよかったと思うときは、どんなときですか。
Ａ児：休み時間に一緒に遊ぶとき。
Ｂ児：忘れ物をして困ったときに、貸してくれたとき。



3･4 年生用 P70

□　指導上の留意点

「私たちの道徳」の写真や文章を見て、具体的な生活場面を想起させることで、価値への方向付けをする。

（２）展開　資料を通して話し合う。

教師：絵はがきをもらったとき、広子はどんな気持ちだったでしょう。
Ｃ児：友達からもらってうれしい。
Ｄ児：きれいな景色だから行ってみたい。
教師：料金不足のことを知らせるかどうか迷ってしまいました。兄と母の意見を聞いて、広子はどんな気持ちだったでしょう。ハートカード(心情円)を使って考えてみましょう。
＜お礼だけ＞
Ｅ児：料金が足りなかったことを伝えるのは、正子に悪い。
Ｆ児：正子がいやな気持ちになる。
Ｇ児：うれしかったから、お礼の気持ちをたくさん伝えたほうがいい。
＜どちらも半分ずつ＞
Ｈ児：どちらも正しいと思う。
Ｉ児：両方書いたら、納得する。

お礼だけ…青色　　教える…ピンク色
迷う広子の気持ちをハートカードに表し、理由を書く。

＜教えてあげるほうがいい＞

Ｊ児：正直に伝えられるのが友達だから。

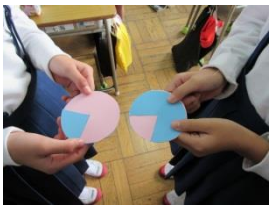
Ｋ児：お金を返してほしい。

Ｌ児：また同じまちがいをしてしまう。

Ｍ児：正しいことを教えてあげたほうがいい。

自由に他の友達と話し合う。

ハートカードを使って、迷う広子の気持ちについて二人組で話し合う。



教師：料金不足のことを書き足そうと決心したのは、どんな気持ちからでしょう。

Ｎ児：やっぱり友達だから、教えてあげたほうがいい。

教師：友達だから、教えずに見逃してあげてもよかったのでは？

Ｎ児：友達だからこそ、言わないといけないこともあると思う。

Ｏ児：正子なら、怒らずに分かってくれると思う。

教師：何を分かってくれるのかな？

Ｏ児：広子が正子のことを思って言っていること。

Ｐ児：正子を思う気持ち。

□　指導上の留意点

心情円を使うことで、迷っている広子の気持ちに寄り添って考えることができるようにした。また、自分だったらどうするかを考えている児童も見られた。話合いでは、二人組、自由に他の友達と、そして全体でそれぞれの立場の考えを発表させた。教えてあげたほうがいいという考えの児童が多かったので、ゆさぶりや切り返しの発問を通して、広子の気持ちを深く考えさせるようにした。

（３）終末　本当の友達について、考えをまとめる。

教師：友達として大切なことは何だろう。本当の友達って、どんな友達だろう。

Ｑ児：相手を大切に思うこと。

Ｒ児：思いやり。

3･4 年生用 P74

□　指導上の留意点

これまでの生活を振り返りながら、本当の友達について考えさせた。「私たちの道徳」の「友達だから、どうしてあげた方がいいか」を考える挿絵を使って、自分なりに考えをまとめることができるようにした。

本当の友達ってどんな友達だろう。
・まちがっていれば、まちがっていると言えて、何でも打ち明けられる友達。
・友達のためになるやさしさのある人。
・友達のために自分が今できることを見付け、それを行動にうつすことができるのが友達。
・お互いのために何かできるような友達　。　　など

３　実践を振り返って

導入では、友達がいてよかったときのことを具体的に想起させるために、「私たちの道徳」の挿絵や言葉で、価値の方向付けがスムーズにできた。終末では、資料からだけでなく、これまでの友達との関わりや生活場面へと広げて振り返りながら、考えさせることができた。